

平成29年3月1日(水)

老球の細道309号

2月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

世界は北朝鮮の金正男氏殺害事件、アメリカ・トランプ大統領の発言や大統領令の発布による世界の混乱などで毎日ニュースにくぎ付けされる日々が続いた。またバスケットボール活動においては毎週末がBリーグの仕事やクリニックで非常に充実していた。しかし、国民の大イベント「バレンタインデー」とは無縁となり「俺チョコ」で自分を慰めた。

1・テレビから〈25日福島中央TV・Bリーグ試合・福島対信州のゲーム〉

「福島でもなく信州でもなく、上杉を応援に来ている」〈テレビインタビューでの上杉翔君の親のコメント〉郡山での試合観戦に出かけた。今年はスタメンに定着し、どのような活躍をするか楽しみだった。1Qからの彼の活躍で信州の勝利。テレビではホームコート福島の選手のことより、上杉選手の名前ばかりが連呼された。両親はどれほど誇らしかったことか。会津の上杉から日本の上杉に確実に伸び続けている。

2・読書から

「勝利の中に敗北の教訓を見出すことはむずかしい」〈児島譲『太平洋戦争・上』〉

戦争の戦いは「究極の戦い」。日本がなぜ間違った太平洋戦争に突き進んでいったのか。序盤の勝利に安堵し、修正点に気づく謙虚さに欠けていったことが敗北への道となってしまった。勝利の時こそ謙虚になり反省すべき時。バスケットボールのゲームも同じである。

3・新聞等のコラムから

◆「先のことはあまり考えられない。また、明日の練習のために準備をして、次の試合に向けて準備をする。その積み重ねだけ」「サッカーが好きだということに尽きる。僕はサッカーしか知らない。サッカーに感謝している」〈朝日新聞・サッカー三浦知良の言葉〉

26日、50歳の誕生日にあったJリーグ開幕戦でプレイし、自らのリーグ最年長記録をさらに伸ばした。長く続けるには「好き」「恋」「愛」と止揚すること。福沢諭吉の名言に「世の中で一番楽しく立派なことは、一生を貫く仕事を持つということです」がある。

◆「どんな難問にも、解ける糸口があるはず。頭を抱え込まず、出来ることから答えを見つけて行こう」〈朝日新聞・加藤登紀子のひらり一言〉。その通り。易から難へ。

◆「才能とは“負けず嫌い”と“好きであり続ける”こと」〈囲碁棋士・井山裕太著『勝ちきる頭脳』〉「好きになる」ことは簡単であるが、「好きであり続ける」ことは困難である。好きであり続けられのは、たゆまぬ研鑽でその奥深さに謙虚にされるとき、新たな魅力が芽生えてますます好きになる。

4・クリニックレジメの言葉

◆「今日は昨日の単なる繰り返しではない。毎日が新鮮な日々である。平凡な中に非凡を発見する。発見できるような自分にする。繰り返すときは、いつも新しい目で見ると。新しい角度から垣間見ようとすることが大切だ」〈いわき光洋高校クリニックより〉練習は同じことの繰り返しではない。新しいことへのチャレンジである。同じことのなかに新しい課題を自分で見つけることで新鮮な練習となる。指導は同じ選手を相手にするが、日々選手の良い所の発見、課題の発見に努めれば、毎日の練習が選手との「一期一会」となるのではないだろうか。練習、コーチングにおいて最も恐ろしい敵は「マンネリズム」。